

クリーン開発と気候に関するアジア太平洋パートナーシップ (APP)

第 6 回鉄鋼タスクフォース会合、北京、中国

2008 年 11 月 26–27 日

0. はじめに

覚道崇文氏が、前議長の立石穰二氏から引き継ぎ、クリーン開発と気候に関するアジア太平洋パートナーシップ (APP) の第 6 回鉄鋼タスクフォース会合を 2008 年 11 月 26–27 日、中国の北京で開催した。共同議長のシン氏が欠席し、ダス氏がこの会議で共同議長代行を務めた。

1. 議題採択

議長が開会の言葉、国家発展改革委員会の Tang Bin 氏がホスト国の中国を代表して歓迎のあいさつ、共同議長代行が開会の言葉をそれぞれ述べた後、タスクフォースは今会合の議題を採択した。

2. 国別の進捗報告

全参加国が、韓国の釜山で開かれた前回タスクフォース会合以降の主な活動について、簡潔に報告した。

オーストラリアは、キャップ・アンド・トレード制度が 2010 年に同国で導入されると報告する一方、APP の活動にも引き続き力を注ぐことを確認した。

カナダは、APP の活動に 3 年間に 2000 万ドルが投じられたと述べる一方、同国では業界の参加を広げる作業が行われており、非常に重要だと受け止められていると説明した。

中国は、1 億トン規模の旧式化した粗鋼生産設備と 5000 万トン規模の旧式化した鉄鋼生産設備を廃棄する計画だと説明し、日本の経済産業省が中国の鉄鋼プラントに日本の専門家を派遣して協力してくれたと礼を述べた。

インドは、新たに発表した「気候変動に関する国家行動計画 (NAPCC)」について、同国の 1 人当たり温室効果ガス排出量が先進国水準を超えないように定められていると説明した。

日本は、2008 年 7 月に導入した低炭素社会づくり行動計画が、2050 年までに排出量を 60–80%削減する長期目標を定めていると報告し、イニシアチブの中でも特に、今後 5 年間に革新的技術開発に約 300 億ドルを投資すると約束した。

韓国は、2008 年に「低炭素、グリーン成長」国家ビジョンなどの大きな政策展開があり、第 4 次国家気候変動政策が 2008 年から 2012 年の間に温室効果ガスを削減する計画だと説明した。

議長は、APP 鉄鋼タスクフォースの進捗を振り返り、プロジェクト 2 の第三者データ検証を行うため、ハッチが選定されたこと、次回の政策実施委員会（PIC）は 2009 年 5 月にオーストラリアで開催されることを報告した。

3. 省エネのための鉄鋼産業関連指標の現状評価 [STF-06-02]

日本が幹事国としてプロジェクトの進捗状況を報告した後、現在の 2 つのカテゴリーに入らないデータの扱い方を追加的に検討する必要があるか、鉄鋼生産経路の影響も考慮する必要があるかについて、タスクフォース参加者が議論した。また、参加国は、残った未提出データをできる限り早急に提出するように求められた。

続いてハッチが、第三者監査人としてプロジェクトに加わることを述べ、データのセキュリティ確保に講じる対策と、データ分析時に採用する手順を説明した。データ管理の一部詳細を明確化した後、タスクフォースはハッチが第三者監査人としてプロジェクトに加わるのを支持した。

韓国は、タスクフォース会合の 2 日間に開かれた専門家グループ（EG）の短い会合の結果を報告した。この会合は、プラントの分類定義の改善、2005 年を基準年としたデータ提出、2005 年のデータが入手できない場合の基準年の指定、データ対象の新たな概念について、提案をまとめた。

タスクフォース参加国は、2009 年 1 月 15 日を期限として、対象を改善するための追加データと、データの質を改善するための更新データを提出するように要請された。

4. パフォーマンス指標の設定 [STF-06-03]

韓国が、削減施設設置に対する障害の調査について、回答を収集して分析したこれまでの成果を報告した。ごく限られたデータしか受け取っておらず、回答に含まれる障壁の説明も不十分だと述べた。

プロジェクトの範囲に関する議論の後、プロジェクトは 2 つの異なる段階でアプローチすることが決まった。第 1 段階は障壁の評価に焦点を当て、第 2 段階は削減ポテンシャルを評価する。

ハッチが会合の 2 日目に、技術の拡散に関する障壁について、初期チェックリストを含む短い発表を行った。タスクフォース参加者からは、限界削減費用曲線を用いて技術のポテンシャルを評価すること、経済成長率が拡張計画と技術改善計画の間で配分される優先順位に影響を与え得るのを認める必要性、政府や企業の行動が知的財産権などの一定の障壁を乗り越えても良いと認める必要性などが提案された。EG は、障壁をテーマにした議論を継続し、知見をタスクフォースに報告するように求められた。

日本は、会合前にタスクフォースに送った目標設定方法論のディスカッションペーパーを説明した。ペーパーが図示した目標設定方法論の概念イメージは、タスクフォース参加者間で基本的に共有されたが、ペーパーの定義について参加者から幅広い見解が提示され

た。タスクフォースが次回会合までに、ペーパーで提起された別のオプションを検討し、次回会合で最終決定を出すことで合意した。

議長は参加国に、目標設定方法論を提案したペーパーを詳しく検討し、年末まで、遅くとも1月半ばまでに事務局の和田氏宛てに意見を出すように要請した。EGが意見を集約し、次回セントルイス会合までに、事前に新たなディスカッションペーパーを作成できるようにするためである。議長は意見を出す可能性のある者に対し、既に決まった問題を蒸し返すのではなく、今回のペーパー内で議論する項目だけに絞るように促した。

5. パフォーマンス診断 [STF-06-04]

日本が、このプロジェクトに基づく専門家の訪問結果について、中国と前日、点検会合を開いたこと、インドとは2009年2月に同様の会合を行う予定であることを報告した。点検会合は、これまで行われた訪問が非常に有益かつ成功だったことを示しており、ほとんどの提案が実行に移されている。また、インドと中国はともに、日本のプロジェクトへの関与に感謝している。

インドは、改善ポテンシャルだけでなく、技術の実行可能性や改装可能性も検討する必要があると指摘し、最後の実施を支援してもらえれば勧告された技術の最終的な採用に弾みが付くと提案した。

中国は、日本の専門家が中国の3カ所の鉄鋼プラントで行ったようなパフォーマンス診断はもはや中国に必要なく、中国の専門家が日本のプラントを訪問する相互訪問の方がむしろ大きな支援になり、鉄鋼タスクフォースの枠組みにそれを加えられるかどうかを次回タスクフォース会合で検討するように提案した。

6. 技術普及 [STF-06-06]

オーストラリアが、技術普及ガイドラインの最新版を発表した。同ガイドラインは、パフォーマンス診断後のプロジェクト開始方法の提示、技術普及障壁の理解、現在のプロジェクト案の見直しを試みている。オーストラリアは参加国に対し、年末までに和田氏を通じて、ガイドラインで実現してもらいたい改善点に関するフィードバックや提案を文書で提供するように求めた。

タスクフォース参加者は、財源手当てのため障壁分析の詳しさの水準や潜在プロジェクトの潜在的利益に関連して、また、財源手当てのプロセスを容易にするため、鉄鋼タスクフォースのプロジェクトが支持を得られる可能性について、議論を交わした。

7. 最先端クリーン技術 (SOACT) ハンドブック [STF-06-05]

SOACT ハンドブック・プロジェクトに関する進捗状況の点検が、米国代表から示され、タスクフォース参加者全員が、現在のSOACT ハンドブックを検討して、追加や変更の提案があれば、2009年3月31日までに和田氏に提出するように求められた。変更点は2009

年5月の次回APP会合で検討され、SOACTハンドブック第2版は2009年5月の会合後に、タスクフォースの承認を得るため配布される。公開は2009年11月にする方針である。

日本は、新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）の技術ハンドブックからいくつか例を取り、ヨークス乾式消火設備（CDQ）などの技術の詳細をSOACTハンドブックの次の版に追加できると示した。また、参考用にNEDOハンドブックのPDFコピーを入手したい参加者は、和田氏に連絡するように勧められた。ハンドブックに技術の詳細を追加したい他の国々は、SOACTハンドブックの価値と有用性を最も大きくする趣旨で貢献するように求められた。

8. 他の事項

和田氏が、鉄鋼タスクフォース・アクションプランの更新を説明し、カナダに対して、障壁と達成のセクションの執筆を要請した。タスクフォース参加者には、議長が会合後にまとめる要約とともに新たな原案を配布するので、検討してもらって、誤植や必要な修正に関するフィードバックを12月末までに和田氏に提出するように要請があった。

9. 今後の作業についての協議

米国の次回タスクフォース会合に早めに登録することが重要だと強調された。次回会合はAIST会合と合わせて企画されており、技術ショーケースも開かれるからである。入手できるホテルの部屋数に限りがあるため、APP参加者のホテル予約は1月15日に締め切られる。ビザの手配で支援が必要なタスクフォース参加者は、なるべく速やかに国務省のクリストファー・グリーン氏に連絡を取るように助言がなされた。

同時開催されるAIST会合との間で、スケジュール上の無理が生じる恐れがあるとの懸念が示された。この懸念は、米国の主催者に寄せられた。

中国は、今後の作業領域に、省エネ技術改善プロジェクトの実施評価方法を追加できるかもしれないと提案した。しばしば、成果の証明がプロジェクトの財源手当ての必要条件になっているからである。この提案は、次回会合で議論されると考えられる。

10. 閉会

議長は、第8回タスクフォース会合が2009年秋にカナダで開かれると述べた。正確な予定は、タスクフォース参加者に電子メールで連絡される。議長はタスクフォース参加者に、会合で避けるべき重要な日を和田氏に連絡するように要請した。2010年初頭の第9回タスクフォース会合の開催地は、次回会合で決めることで合意した。

議長は、会合開催にあたっての素晴らしい準備について中国の主催者に謝意を述べ、会合を締めくくった。